

会 議 概 要 書

審議会等の名称	第8期第3回 磐田市環境市民会議
担当部課名	環境水道部 環境課
会議の開催日時	令和3年7月30日（金）午後2時～午後3時45分
会議の開催場所	市役所西庁舎 3階 304.305会議室
出席者 (職・氏名)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 委員13名 (出席者11名) 佐藤和美、寺田辰蔵、伊藤正次、砂川利広、山本哲也、菊島昭崇、金原和義、小坂教光、新居一馬、安間美恵子、大竹伸佳（敬称略） ・ (事務局3名) 環境課長 鈴木和彦、環境保全グループ長 櫻井智子 副主任 密岡美雪 ・ (ごみ対策課3名) ごみ減量推進グループ長 鈴木法之、角 範子、田中将博
議 題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 令和2年度環境基本計画進捗状況について ・ 基本方針に関する意見交換 ・ その他
配 付 資 料 等 の 件 名	<ul style="list-style-type: none"> (1) 次第 (2) 委員名簿 (3) 第2次磐田市環境基本計画進捗状況 (4) 磐田市環境市民会議ワークシート2 (5) 第2次磐田市環境基本計画冊子※ (6) 磐田市環境市民会議ノート※ (7) ごみ減量・リサイクルの推進について (8) 食品ロスゼロ大作戦 <p style="text-align: center;">※第1回配布済</p>
概 要	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 会長挨拶 3 議事 <p>(1) 令和2年度環境基本計画進捗状況について</p>

	<p>(2) 基本方針に関する意見交換</p> <p>基本方針 4 3Rの取組や環境にやさしい消費行動を推進します</p> <p>基本方針 5 地球温暖化対策に取り組みます</p> <p>基本方針 6 環境教育を推進します</p> <p>(3) その他</p> <p>4 閉会</p>
<p>会 議 録</p>	<p>(1) 令和2年度環境基本計画進捗状況について</p> <p>【事務局】進捗状況について説明</p> <p>【意見・質問】</p> <p>委 員：一点目、ベッコウトンボの確認数ですが令和3年度は67頭であり、このままでは目標の200頭を達成することは困難です。そのため、ベッコウトンボの生態調査は天然記念物のトキに対して行われるような科学的なアプローチが必要だと考えます。</p> <p>二点目に、文化財関連施設の入館者数については新型コロナウイルス感染拡大が収まらないと増加は難しいと思います。私は第二次磐田市文化財基本計画のパブリックコメントに、動画配信や市内27か所交流センターでの巡回展示をしたらどうか、というコメントを寄せました。これに対し、文化財課からノウハウは持っているので検討したいとのことでした。この環境基本計画の指標には入館者数だけではなく、動画の閲覧数や交流センターの入館者数などを加えたらどうかと考えます。</p> <p>三点目、地場産物を使用する割合です。現状の学校給食では19%くらいが限界かと考えます。地場産物を購入しやすいように、規格外品などをもっと安く手に入れやすい形で市民に提供すればよいと考えます。地産地消は輸送距離が短くなりCO2の排出が減ることで地球温暖化防止策にもつながると思います。</p> <p>最後に、住宅用太陽光発電の普及率についてです。この10%はおそらく変わらないと考えます。国の「2030年に2013年度比46%減」という目標がありますが、困難だと考えます。磐田市の施策としては住宅用太陽光発電設備の設置に対して奨励金を交付して</p>

いますが、これは継続が必要だと思います。浜松市では、市関連施設の自販機でペットボトルの販売抑制を検討しているという記事を見ました。これも、参考にするとよいと考えます。

廃ペットボトルを利用したアスファルト資材が、ヤマハ発動機近くの道路で使用されたと報道されました。もっと、別のものでもタグを組んで推進したらよいと考えました。

会 長：基本方針2の「市民一人当たりの都市公園面積」についてです。令和2年度の結果が15.67㎡で前年度と比較してほとんど増加していません。平成38年度の目標値21.27㎡に対する進捗率はどうか教えてください。

事務局：この指標は、市の「緑の基本計画」の指標を目標としています。現在、目標値と実績に大きな開きがあります。実は、市内の都市公園面積を計測するには大規模な調査が必要であり、毎年できるようなものではないとのこと。そのため、現在は市の事業で設置された緑地のみを実績としています。また、現在、工事中の防潮堤については完成を待っての追加となりますので、今後増加することが見込まれています。

委 員：水質に関することです。指標では観測地点は太田川・天竜川の5地点ということでした。市内のぼう僧川や今ノ浦川は対象とならないのですか。

事務局：身近な河川については、市で毎年測定しています。結果については「いわたの環境」という資料集をHPに掲載しています。市街地にある河川については、BODの環境基準を超過しているところもありましたので、ご覧ください。

委 員：地下水汚染について伺います。上岡田で井戸を掘ったのですが、井戸水から有機溶剤のような臭いがすると聞きました。その状況について理由など把握されているか、今後の対策などについて教えていただきたい。

事務局：地下水においても、市では毎年定点で調査を実施しています。地下水については、井戸の場所や深さによって出る水が違ってき

ます。委員のおっしゃる井戸の位置を教えていただければ、周辺に調査している井戸があるかなどは確認できます。

委員：有機溶剤の臭いというのは、周辺の工場などから地下水への影響のある汚染がされている可能性があり、とても大事な問題だと考えます。

事務局：有機溶剤のような臭いということですが、その井戸の水自体を調査しないことには何が原因かは分かりません。地下水については、井戸の所有者に調査などの維持管理をお願いしています。

委員：上岡田の神社の水道が地下水を利用していますが、この水は市から飲用にしないようにと聞かれています。それは、市では把握されていないということでしょうか。

事務局：そこは、過去に地下水の汚染があった地域になるため、市でも調査し、把握しています。

委員：過去に汚染があったとこのことですが、現状はどうでしょうか。

事務局：継続して調査していますが、まだ、地下水からは微量に検出される状況です。

委員：原因もわかっており、改善してきているということですか。

事務局：井戸も個別に使われており、市で過去の汚染については把握しています。すべての井戸についての把握や改善は行っていません。そこは過去に汚染があったので、継続した調査をしています。今回言われた地区の場所が、そこに近いのか影響を受けているのかなど、その辺りは後ほど確認させていただきますが、この場で確認は難しいです。市は個別の井戸の水質についてすべてを把握しているものではありません。

委員：基本方針3の1 自然観察会の参加人数は竜洋昆虫公園の人数は入っていますか。

事務局：この指標は市が行っている事業への参加者になります。昆虫公園の入館者数は入れていません。

委員：昆虫公園の入館者数も数値としてカウントしたら良いと思います。

事務局：現状としては、建物の入館者数とイベント的に行うものとは分けて計測しています。今後、指標見直しの検討時に参考とさせていただきます。

(2) 基本方針に関する意見交換

「基本方針4 3Rの取組や環境にやさしい消費行動を推進します」

【現状】レジ袋削減のために、本市では10年前からいわた消費者協会及び市内スーパー33店舗と協定を締結し、レジ袋有料化やマイバッグ持参運動などの啓発を行ってきました。市民に浸透したこともあり、協力店でのレジ袋辞退率は9割を超えるなど効果を上げてきました。

【課題】昨年7月の全国的なレジ袋有料化を踏まえた次の展開として、この協定を食品ロス及びプラスチックごみの削減に向けた新たな取組みに発展させ、家庭や事業所から排出される食品ロス及びプラスチックごみの減量・資源化を推進していきたいと考えていますが、事業活動や日常生活での食品ロス及びプラスチックごみを削減するための取り組みについてご意見をお願いします。

【意見】

委員：2030年の磐田市の重点目標として提案させていただきます。一点目、「無駄なものをなくす」については、ICTやDXを活用し消費者のニーズを把握します。生産量の調整ができ、無駄なものを減らせると考えます。二点目、「地球にやさしい消費行動」について、ループシステムを確立する。量り売りなどを検討する。マイバッグ、マイボトル、マイ箸を推進する。市が管理する自販機からペットボトルを抑制していくなどがどうかと思います。

事務局：現在、磐田市廃棄物処理実施計画の中で、マイバッグやマイボトルなどの推進を行っているところですが、自動販売機のペットボトル抑制については参考にさせていただきます。

事務局：欠席委員からの意見を紹介します。

紹介意見：事業者として、プラスチックごみの減量、資源化を推進するという観点から下記が必要と思います。

- ・再生資源または再生可能資源に由来する原材料の比率を向上
- ・長寿命化や省資源設計の商品拡充
- ・リサイクルやリユースなど、ライフサイクル全体の推進

実現するために、一企業では対応できない課題も多いと思いますので、企業のマッチングなど、社会全体で手を組む制度や仕組みがあるといいと思います。

会長：例えば、コンビニエンスストアなどでテイクアウトするときに、以前は初めから使い捨てのスプーンや割りばしがついていましたが、今は必要かどうかを尋ねられるようになりました。無駄なものを減らそうという方向に社会が動いています。

委員：第2次環境基本計画の基本方針4の中で、目標4-2の③、環境にやさしい消費行動の推進とあります。その中に「環境に配慮した消費行動がとれる消費者の育成を消費者団体と共同で実施する」とあります。市内の消費者団体は高齢化が進んでいます。どうやって若い世代の方を取り込むかが難しいと思います。子供を育てる親世代の方が、消費について学ぶ機会があれば良いと思います。環境の問題については、カタカナの言葉が多く、とても分かりにくいです。

「基本方針5 地球温暖化対策に取り組みます」

【現状】市は2050年カーボンニュートラル（脱炭素）を目指すことを表明しました。これに合わせ、「地球温暖化対策実行計画（区域施策編）」をこの環境基本計画に組み込む形で策定する予定です。磐田市のCO₂排出量は、部門別に資料②のとおりです。

【課題】事業活動や家庭生活でのCO₂排出量を削減するための施策について、ご意見をお願いします。

委員：省エネと再生可能エネルギーの両輪を進める必要があります。市民が省エネを行うことで何かしらのインセンティブを得られる

と、市民は動くと思います。また、インフラの関係では電力供給業者とともに、太陽光発電や洋上風力発電が有力と考えますが、磐田市単体では難しいので、八市一町の広域連携の枠組みを使って活動できたらよいと思います。また、2050年度目標のためにメタンハイドレードの有無を確認する、市内の河川や下水道を利用したマイクロ水力発電の実証実験を進める、などが良いと思います。

委員：静岡県としても、今まさに脱炭素の計画を策定しているところです。確かに脱炭素は国がやるべきこと、県がやること、市町村でやることがあります。かなり大きな目標となりますので、市町村でできることは限られてきます。できるところはしっかりやっていただきたい。ご存知だと思いますが、環境省で脱炭素に向けた先行地域を募集しています。そういったものにも積極的に取り組んでいただければよいと思います。

また、環境教育にもつながりますが、先ほどの、カタカナの言葉が多くて分かりにくいというご意見です。県として考えさせられました。国も、県も、脱炭素に取り組んでいるため、日々当たり前前に口にしていますが、高齢者や小さい子供さんにもしっかり伝わるようにしなければいけない。皆さんに理解していただいて初めて、脱炭素が実現するのだと思いました。

委員：前回の時に、温暖化防止の計画が進んでいないと感じると意見を言いましたが、地球温暖化防止活動推進センターが各家庭で「家エコ診断」ができるシステムを製作しました。これを使うことで、気づきがあると思います。他の市町でエコ診断をさせていただきますが、そういった場所に来られる方は環境問題に関心のある方が多い。興味のない方にも、ぜひ、家エコ診断をやっていただきたい。また、環境基本計画の中にスマートハウスという言葉を使用しているところがあります。この言葉がすごく難しい。スマート、というと、ただ単にエネルギーの自家消費というだけでなく、スマート家電を利用して使用電力を見える化することや、AIを

使って家電を自動制御するような家のことでもあります。まずは、そういったところを伝えていくことから始める必要があると思います。

会 長：私たちが何を選択していくか、当たり前のように選択していった行動を変えていく必要があります。これからの社会は、どういう行動を選択していくかにかかっているのだと思います。

どんな選択が環境に良いのか、そこをきちんと教えてもらえると選択しやすくなると思います。磐田市として市民の皆さんに、可能なところからこういう選択をしてください、と示されると分かりやすくなると思いました。

委 員：農業者の立場から言いますと、消費者の選択というところが問題かと思います。現在、消費者は見た目のきれいな野菜のみを選択します。農業のうち有機農業は3%くらいしかありません。消費者の選択が「見た目のきれいな野菜」から「環境に良い野菜」に変わり、そちらが選択される社会になると、もっと有機農業が普及すると思います。

委 員：私は、この基本計画には水素に関する記述がないと思いました。これから、水素も重要なエネルギーの一つになると思いますので、今後の計画には盛り込んでいただきたいと思います。

会 長：私たちの生活には今後、水素がかかわってきますね。公園の整備ですが、緑地化していくというのも効果があります。森林の管理という問題にもつながっていくのかと思います。

委 員：マイクロ水力発電とありますが、農業用水などでも発電可能でしょうか。

委 員：水の流れがあれば、発電できるようです。下水や農業用水などで設置されています。御殿場にあるリコー株式会社の環境研究所でもやっていますし、ダイキン株式会社なども行っています。

委 員：温暖化防止対策は大切なことだと思うのですが、ただ、非常に課題が大きくて、我々が協力できるということは、こまめに節電するような小さいことしかできません。

E V車への切り替えや太陽光発電を設置するのも費用がかかりますし、一般市民には負担が大きいので、なかなか難しいと思います。そういう身近なところで、啓発活動していかないと進まないと考えます。

委員：バイオマスなどは、一般市民からするとよく分かりません。

委員：小さいことでも、意味があるので、そこにメリットがあればいいのだと思います。

委員：我々が身近に取り組めることをもっと啓発するのが一番大事だと思います。

委員：長いスパンで、自分たちの生活を変えていく必要があります。皆が自分事として考えないと地球が住めなくなってしまう。

委員：みんな危機感を持っていると思います。そういうことをもっと啓発していかないといけないです。

委員：職員が行うノーカーデーがあります。これは20年前からやっているわけで、これをノーカーデーではなくて、「ノーカーで」にすればよいと思います。その日だけでなく日々、健康のために少し歩くなど、実行することが大切です。そして、次の一手をみんな考えていくべきだと思います。

委員：自分でできることを進めていくべきと思っています。エコ活動としてマイバッグなども実践されていると思いますし。皆さんが少しずつ努力すればいいかなと思います。

基本方針6 環境教育を推進します

【現状】令和2年度に市と事業者等が連携し、小学生対象の環境学習メニューを作成しました。令和3年度から運用を開始し、3校の実施実績があります。

【課題】小学生の幅広い学習のため、メニューを充実させていきたいと考えており、特に市民団体と連携したメニューの追加について検討しています。どのようなメニューを追加していくことが良いか、ご意見をお願いします。

委員：事業者として環境ものづくり教室というメニューを作成して、磐田市にも協力いただき、小学校に展開していただいております。他にもエコピアの森活動、エコ絵画コンクールなど、市内の小学校の方にも参加いただいております。環境だけでなくグローバルコミュニケーション教室など、他の教育メニューについても教育委員会を通じて展開していただいております。この場を借りて、様々な施策にご協力いただき、誠にありがとうございます。その中で気づいたこととして、モデルとなる学校があるとよいと感じました。（環境ではなく、教育委員会の管轄とは思いますが。）他地区で市のモデル校があり、そちらの小学校は、当社だけでなく、様々な企業や人と結び付き、新しい教育を提案・実施し、フィードバックを繰り返してきました。我々も気づきが多かったので、モデル校があると新たなメニューが形成されると思います。あと、モデル校の校長先生や教頭先生が異動されると、異動先の学校から声をかけていただいたので、活性化にもつながると思います。

委員：幼い時から正しい環境教育というのが大切です。今は、若い子供たちがコンビニで買って食べてそのまま捨てている姿を見ます。そこにはゴミを「洗って、分別して、捨てる」ということを考えないで済む環境があります。家庭でのしつけの問題でもありますが、簡単に買って簡単に捨てています。自分のごみがどうなるのか、ちゃんと分かるように育ててほしいとおもいます。また、カルタやすごろくなど遊びながら、ものの流れを理解できるといいなと思います。

委員：市民・事業者の主な取組の3つ目に「従業員に環境教育を行う」という項目があります。市民に対する環境教育はこれに尽きると思います。職域の中で学ぶことが一番効果的であると思います。事業者さんには従業員への環境教育をしっかりやっていただければ大きな効果があると思います。また、市民、事業者、市と三位一体で行うとより効果的だと思います。事業者にとっても、環境教育は新しいビジネスモデルにつながっていくのだと考えます。

委員：環境教育のメニューについて、この中に「脱炭素社会」について入れてほしいです。子供の時から「自分たちの目指す社会がどういうものなのか」をしっかりと考えることが大事です。なかなか難しいのですが、教育委員会とも連携し、しっかりと伝えていただけたらと思います。

委員：事業所の責任という観点で、弊社は食品工場ですので、原材料に、規格外品やB級品なども利用しています。現実には加工に手間がかかるなどのデメリットもあります。しかし、そういったものを使用することでの環境への配慮効果はあると考えています。また、従業員の教育の観点では、私たちのような30代後半から40代の社員より20代の社員の方が、意識が高いと感じます。神田周辺や川崎周辺ではSDGsの教科書があるそうです。実際に、弊社の新入社員は環境に対する意識がとても高い。先ほどの日常的な省エネルギーなど、自然とできるようになっている。そういう意味では悲観的に考えるより前向きに考えてよいかなと思います。

(3) その他

委員：第3回会議までで基本方針の見直しがされてきました。プラン自体はいいものができると思います。PDCAのうち、D(Do)の部分について、市民会議以外にワーキンググループを提案したいです。食、生態系、エネルギーなど、色々なグループで推進していくといいと思います。また、これらすべてをサポートするデジタル化推進ワーキンググループも提案します。PDCAのうちC(Check)とA(Action)を市民会議が担うようにしたらよいともいます。メンバー構成としては、市民や事業者などから、推薦又は公募で決めたらどうかと思います。